

「令和8年産 麦作情報（第4号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象の概要（3月4日～3月22日までの気象、平年と比較して）

平均気温…約0.3℃低い。

降水量……多い。（平年比146%）

日照時間…長い。（平年比134%）

2. 麦類の生育状況

（1）農試情報田の調査結果（3月19日付け 麦づくり情報第4号）

品 種	播種期 (月/日)	年 次	草 丈 (cm)	茎 数 (本/㎡)	葉 齢 (L)	葉 色 (SPAD)	概 況 4) (平年・平均と比較して)
1) シロガネコムギ	11/20	本 年	51.9	669	8.6	43.0	[気象] 3月2日～3月18日まで ◆平均気温…0.3℃高い ◆日照時間…長い(平年比118%) ◆降水量…やや少ない (平年比98%) [生育] ◆草丈 「シロガネコムギ」は両作期とも低い。 「サチホゴールデン」は12/1播種でやや短く、12/10播種でやや長い。「はるか二条」は12/1播種でやや短く、12/10播種で短い。 ◆茎数 「シロガネコムギ」は11/20播種で平年並み、12/10播種で多い。「サチホゴールデン」及び「はるか二条」は12/1播種で少なく、12/10播種で多い。 ◆葉齢 「シロガネコムギ」は11/20播種でやや少なく、12/1播種でやや多い。「サチホゴールデン」は12/1播種でやや多く、12/10播種でやや少ない。「はるか二条」は12/1播種で平年並み、12/10播種でやや少ない。 ◆葉色 「シロガネコムギ」は11/20播種でやや淡く、12/1播種で淡い。「サチホゴールデン」は12/1播種で平年並み、12/10播種で淡い。「はるか二条」は両作期とも濃い。 ◆生育ステージ 11/20播種「シロガネコムギ」、12/1播種「サチホゴールデン」、「はるか二条」は止葉が抽出展開中である。 (詳細は次頁参照)。
		平 年	59.4	676	9.1	43.7	
		平年差 (比)	87	99	-0.5	-0.7	
	12/10	本 年	39.7	789	8.3	40.3	
		平 年	50.1	681	8.0	47.4	
		平年差 (比)	79	116	+0.3	-7.1	
2) サチホゴールデン	12/1	本 年	54.3	925	9.8	39.5	
		5ヶ年平均	55.6	1082	9.6	39.6	
		平年比 (差)	98	85	+0.2	-0.1	
	12/10	本 年	53.4	1277	8.7	37.5	
		平 年	51.3	1017	8.9	41.4	
		平年比 (差)	104	126	-0.2	-3.9	
3) はるか二条	12/1	本 年	53.4	871	9.5	46.2	
		5ヶ年平均	54.8	940	9.5	43.1	
		平年比 (差)	97	93	±0	+3.1	
	12/10	本 年	51.8	923	9.0	46.1	
		平 年	58.3	871	9.3	43.4	
		平年比 (差)	89	106	-0.3	+2.7	

留意点	◆茎立ちは小麦が平年並み、大麦が平年よりやや早くなっており、出穂期も同様と予測される。
	◆赤かび病の防除について 小麦：開花始め～開花期（出穂期の約 7～10 日後）の防除は、発病抑制だけでなく DON 低減効果が高い。さらに、開花 10～20 日後頃に 2 回目の防除を行うと DON 低減効果が高まる。
	大麦：蒴殻抽出期（出穂期の約 2 週間後）の防除は発病抑制だけでなく DON 低減効果が高い。さらに、その 7 日後頃に 2 回目の防除を行うと効果が高まる。
	本病の発生が多いパン用小麦及び食糧用大麦「はるか二条」については、2 回防除を基本とする。
	◆大麦において網斑病がみられる場合は、出穂期～穂揃期に薬剤防除を行う。ただし、出穂前においても病斑が上位葉に進展している場合は、直ちに防除を実施する。
	◆麦類生産物については、適正なタンパク質含有率の確保が極めて重要であることから、穂揃期追肥を施用し適正化を図る。

注意事項

- 1)「シロガネコムギ」：苗立数について 11/20 播種は 120 本/㎡、12/10 播種は 150 本/㎡。施肥量は 10a 当たり窒素成分で 5.5-4.5-4.0 kg。平年値は収量が過去 7 カ年の内、収量が最高年と最低年の値を除いた 5 カ年分の平均。
- 2)「サチホゴールデン」：苗立数は 150 本/㎡。施肥量は 10a 当たり窒素成分で 6.0-4.0-2.0 kg。平年値について 12/2 播種は試験を開始した R3 年産から 4 カ年分の平均、12/10 播種は収量が過去 7 カ年の内、最高年次と最低年次の値を除いた 5 カ年分の平均。
- 3)「はるか二条」：苗立数は 150 本/㎡。施肥量は 10a 当たり窒素成分で 6.0-4.0-4.0 kg。平年値について 12/2 播種は試験を開始した R3 年産から 4 カ年分の平均、12/10 播種は試験を開始した H30 年産以降の 7 カ年の平均。
- 4) 概況欄の平年値との比較については、以下のように定義している。
低い(少ない)：94 以下、やや低い(やや少ない)：95～98、平年並み：99～101、やや高い(やや多い)：102～105、高い(多い)：106 以上。

農試情報田の生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成始期 (月/日)	節間伸長開始期 (月/日)	茎立期 (月/日)	出穂期 (月/日)
シロガネコムギ	11/20	本年	1/27	2/18	2/21	未
		前年	2/3	3/1	3/5	4/7
		平年	1/30	2/18	2/22	3/30
	12/10	本年	2/23	3/4	3/6	未
		前年	3/5	3/17	3/19	4/11
		平年	2/21	3/1	3/4	4/5
サチホゴールデン	12/1	本年	2/4	2/25	2/27	未
		前年	2/13	3/12	3/14	4/8
		平年	2/8	2/27	3/5	3/31
	12/10	本年	2/9	2/28	3/3	未
		前年	2/18	3/13	3/16	4/11
		平年	2/11	3/3	3/7	4/3
はるか二条	12/1	本年	2/4	2/24	2/26	未
		前年	2/13	3/8	3/10	4/7
		平年	2/8	2/25	3/3	3/31
	12/10	本年	2/7	2/25	2/27	未
		前年	2/18	3/10	3/12	4/11
		平年	2/9	2/25	3/1	3/31

(2) 三神管内の調査結果(調査日: 3/23、3/24)

調査日	場所	品種名		播種日	苗立ち数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈 葉数(L)	備 考 (平年と比較して)
3月24日	上峰	シロガネ コムギ	本年	11/24	205	67.9	645	8.7	・ 平年の播種日は11/15～12/8 ・ 草丈は高く、茎数は少ない。 ・ 葉齢から見た生育はやや進んでいる。 ・ 出穂始め(3/24時点)
			平年	11/25	164	45.7	695	8.3	
			平年比(差)	-1	125	148	93	+0.4	
3月24日	吉野ヶ里	はる風 ふわり	本年	11/17	143	67.7	648	8.6	・ 平年の播種日は11/15～11/1 ・ 草丈は高く、茎数は平年並み。 ・ 葉齢から見た生育は平年並み。
			4ヶ年平均	11/20	119	60.9	652	9.7	
			平均比(差)	-3	120	111	99	-0.1	
3月23日	鳥栖	はるか 二条	本年	11/21	173	72.7	754	10.0	・ 平年の播種日は11/20～27 ・ 草丈は高く、茎数はやや多い。 ・ 葉齢から見た生育はやや進んでいる。 ・ 出穂期3/25(3/23時点での推定)
			5ヶ年平均	11/22	123	55.6	715	9.6	
			平均比(差)	-1	141	131	105	+0.4	

注1) 「シロガネコムギ」の平年値は、H27～H29及びR4～7の7ヶ年のうち、収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年の平均。

注2) 「はる風ふわり」平年値は、調査を開始したR3年産から5ヶ年の平均値。

注3) 「はるか二条」平年値は、調査を開始したR2年産から6ヶ年の平均値。

(3) 管内の生育概況

- ・ 平年と比べて気温はやや低く、降水量は多かった。
- ・ 生育は平年よりもやや進んでいる圃場が多い。
- ・ 11月下旬頃に播種された大麦では出穂期を迎え始めている。
- ・ 11月20日頃に播種された小麦では主幹の止葉が抽出中である。また、出穂始めの圃場も散見されている。
- ・ 今年の出穂期は、前年に比べて前進すると予測される。

〈佐賀農試: 出穂期推定プログラム(3月23日時点、以降の気温は平年値で試算)〉

○はる風ふわり

○はるか二条

11/17 播種: 推定出穂期 3月25日 11/21 播種: 推定出穂期 3月24日

11/25 播種: 推定出穂期 3月30日 11/26 播種: 推定出穂期 3月27日

12/5 播種: 推定出穂期 4月4日 12/1 播種: 推定出穂期 3月30日

※今後の気温によって出穂期は大きく変動するため、あくまで参考値とする。

3. 今後の管理

(1) 穂揃期追肥（実肥）（4月上旬頃～）

- ・本年小麦の出穂は前年に比べ前進すると予測されるので、遅れないように穂揃期追肥を行う。（穂揃期：有効茎数の8～9割が出穂した頃）
- ・特に、パン用小麦（「はる風ふわり」「さちかおり」）では、タンパク含有率はパンの膨らみ等に関わる重要な事項であるため、必ず施用する。
- ・下記の表及び各地区の栽培暦を参考に、適切な量を施用する。

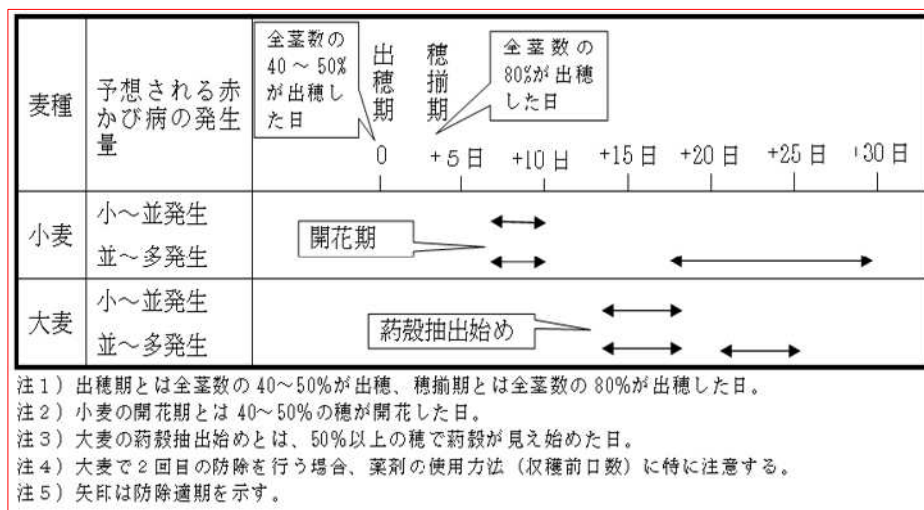
（参考）穂揃期追肥の施肥基準目安

品種	穂揃期追肥 kg/10a			
	硫安の場合		尿素の場合	
前作	水稻跡	大豆跡	水稻跡	大豆跡
さちかおり	30	30	13	13
はる風ふわり	25	25	12	12
チクゴイズミ	10	10	5	5
シロガネコムギ	10	10	5	5

※シロガネコムギは、葉色が淡い場合（出穂期頃の SPAD 値が 40 以下）に施用する。

(2) 赤かび病防除

- ・赤かび病感染適期は開花期～乳熟期で、高温多雨（20～27℃）で経過すると激発する。
- ・赤かび病防除時期については、防除適期を逃さぬよう早めの準備を行う。



大麦の薬殻抽出期



小麦の開花期

【大麦防除時期】

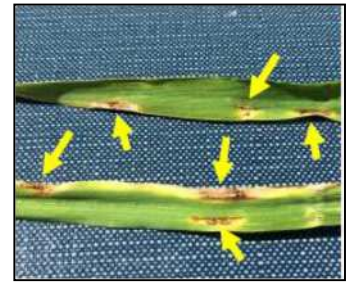
- ・薬殻抽出始め（出穂の約2週間後）に防除。
- ・多発生が予想される場合は2回実施（1回目防除の7日後）。
- ※「はるか二条」「しらゆり二条」については2回防除をおこなう。
- ・トップジンM水和剤を大麦等で使用する場合は、収穫30日前までの使用となっているので注意する。

【小麦防除時期】

- ・開花期（出穂の約7～10日後頃）に防除。
- ・多発生が予想される場合は2回実施（1回目の10～20日後）
- ※「さちかおり」「はる風ふわり」については2回防除をおこなう。

(3) 網斑病防除（大麦のみ）

- ・ 一部の圃場で網斑病の発生が確認されている。今後の気温の上昇に伴い病斑の進展が予想される。
- ・ 登熟に影響し減収・品質低下の原因となる為、上位葉で病斑の進展が確認される場合は、防除時期にチルト乳剤等で防除する。
- ・ 防除適期は出穂期(チルト乳剤は使用回数 1 回に留意)



大麦の網斑病

(4) 黄斑病防除（小麦のみ）

- ・ 前年産において一部の圃場で黄斑病の発生が確認されている。
 - ・ 本年も現時点で発生が散見されている。
- ①昨年産で同病が多発した圃場において、②夏作が水稻かつ③シロガネコムギ以外の品種を連作する場合は、発生状況に注意し、上位葉で病斑の進展が確認されるときは、出穂期にチルト乳剤で防除する。※赤かび病と防除時期が異なるので注意。



管内圃場での黄斑病



シロガネコムギの様子(3/24)



はる風ふわりの様子(3/24)



はるか二条の様子(3/19)

令和8年産 麦類生育期間気象グラフ

(アメダス観測地点：佐賀， データ更新日： 3月23日)

三神農業振興センター

